

スポーツ栄養関係者と私

日清オイリオグループ株式会社 中央研究所 寺田 新

昨年からはスポーツ栄養士養成講習会で「運動生理学」の講義を担当させていただいています、日清オイリオグループ株式会社・中央研究所の寺田です。なぜ大学の教員ではなく、企業の研究員、しかも食品会社の人間が運動生理学の講師を？と思われる方もいらっしゃるかと思います(私も「自分で本当に大丈夫か？」と思う時がありますが…)。

プロフィールをご覧になられるとわかるように、留学後に製薬会社に入ったり、大学に戻ったかと思えば食品会社に入ったりと、学位取得後職場をかなり転々としておりますが、一応自分のなかでは、運動生理・生化学、特に運動時の糖代謝が専門領域だと思っています。また、この放浪癖(?)は学位取得後に始まったことではなく、大学院の頃から、学外の色々な研究機関にお邪魔して仕事をしてきました。その放浪過程において、様々な分野の方と繋がりを持つことができました。現在スポーツ栄養の分野で活躍されている先生、栄養士の方々ともその中でお知り合いになることができ、そんなご縁もあり、私に講師のお声がかかったのだと思います。

自分がスポーツ栄養にかかわり始めたのはいつだったのか？と考えてみると、それは大学3年生の時だったと思います。ひよんなことがきっかけで村岡功先生・中村好男先生(現 早稲田大学スポーツ科学部教授)の運動生理学研究室に毎日のように入り浸ることになりました。そんななか、ある企業とスポーツドリンクに関する共同研究が行われることとなり、その被験者としてリクルートされたのがスポーツ栄養との最初の出会いだったと思います。この共同研究がきっかけでスポーツ栄養に興味を持ち、卒論でもスポーツドリンクに関する実験を行い、さらに大学院に入学してからも引き続きスポーツ栄養関連の実験をやろう、と思っていました。が、「そもそも運動中の骨格筋代謝ってどうなっているの？」という疑問を持ち、「もっと基礎から勉強する必要がある」と感じはじめました。そんな時、自分が大学院に入学した年度から非常勤講師としてこられていた樋口満先生(当時はまだ国立健康・栄養研究所、現在早稲田大学スポーツ科学部教授)に懇願し栄研で骨格筋糖代謝の基礎を勉強させていただくことになりました。ここからは樋口先生・田畑先生(現 立命館大学スポーツ健康科学部長)のもと基礎研究に没頭し、スポーツ栄養に直接関係するような仕事からは離れることになるのですが、「スポーツ栄養関係者」とのお付き合いはここから逆に本格化していくこととなります。

当時の栄研には、スポーツ栄養士の先生方(現在、研究会の理事をされている多くの先生方)がたくさん来られていて、当時まだ20代前半だった自分は、なにかと可愛がってもらっていました(と感じているのは私だけかも!?)。さらに、博士課程の最初の1年間は鹿屋体育大学で研究することになり、当時同大学に赴任されていたスポーツ栄養研究会・現会長の鈴木先生にも大変世話になりました(そんなにお世話になった鈴木先生からの依頼だったので、この原稿も断れない!?)。決して社交的な人間ではないですが、より良い研究環境を求めてふらふらと外部に出て行ったことで、このようにしてスポーツ栄養士の方々をはじめいろいろな人と知り合うことができました。このようにしてできた人脈は、充実した研究活動を行うことができた以上に、今となっては大きな財産であると感じます。樋口先生の大学院の授業が、自分の大学院入学と同時に『偶然』始まり、その講義を『偶然』取ったことがきっかけで、このようにながらもつことができたわけですが、そのような『偶然』のきっかけができた縁を今後も大切にしていきたいと思っています。専門講習会で私の講義を『偶然』受講するのも何かの縁だと思うので、下手な話にも耳を傾けていただけると幸いです。そうしてまたスポーツ栄養士の方々と新たな縁ができればうれしいなと思います。

寺田 新 (テラダ シン)氏のプロフィール

2003年 早稲田大学大学院博士後期課程修了(博士(人間科学)取得)。

日本学術振興会・特別研究員、

ワシントン大学医学部・ポスドク研究員

第一三共株式会社・研究員、

早稲田大学先端科学・健康医療融合研究機構・講師を経て2009年から現職。

2011/7/7